

## ■ OnAir 3000 ユーザーレポート

株式会社ニッポン放送 様

OnAir 3000

AM RADIO  
1242 ニッポン放送

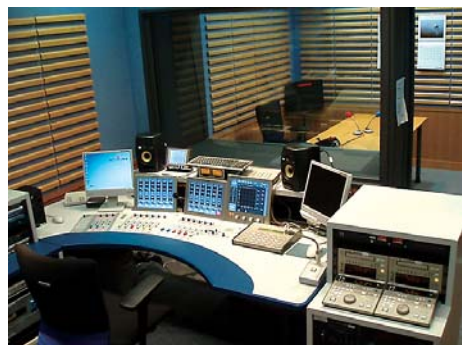
### 第7スタジオを OnAir 3000 で更新



株式会社ニッポン放送  
放送技術部  
真島 春彦

#### 7 スタについて

2004年の有楽町再移転計画の当初、実は7スタは存在しませんでした。最初の計画では音加工を目的に音声卓と周辺機器だけが存在した部屋＝以前ダビングルームと呼んでいた場所＝だったのです。移転計画の途中で、ダビングルームにナレーションブースが付いていると有効だとその要望が加わり、検討の結果、小さな録音スタジオとして設計変更することになりました。しかし、更新スタジオ予算の大枠は既に決まっていたので、機器は移設ということになりました。台場時代は7年程でしたが、台場時代に更新した比較的新



しいスタジオがあったので、その機器を充てました。ところが新社屋の運用が実際に始まると、各スタジオは想定以上に混雑したため、7スタはワンマン加工スタジオにとどまらず、本格収録スタジオとして使われ始めたのです。ミキサー・ディレクター・アシスタントディレクターが、入りきらない副調の扉を開けて、通路にあふれるような形になりながらも、通常番組と同じスタイルで収録する運用も良くありました。また移転前の機能が基本だったため一部足りない機能に対し「こういう状況なのでなんとかして欲しい」との要望があり、後日改修してなんとか使い続けてきたわけです。

#### 限られたスペース故の工夫

こういった現状を踏まえ、以下の要因により最終的に OnAir 3000 に決めました。

- ・7スタの機能を下げることなく、むしろプラスした上で、更新前よりコンパクトであること。
  - ・レイアウトの自由さ。収まりきれないスペースに合わせて形を工夫したい。
  - ・操作に違和感を持たせたくない。現用録音スタジオは3つが OnAir 2000。OnAir 3000 なら制作者の受け入れが早いはず。
  - ・低コストでかつ動作が安定していること。
- また、圧迫感をなくすためローラックを採用し、収まりきれない機器を分散して配置したり、従来2式

のコンソール型だった録音機を2段重ねにして1式にまとめたり、といった限られたスペース故の工夫をしました。IDF前の作業スペース確保のために、必要時に卓を移動できるような仕掛けを考えられたのも OnAir 3000 ならではのメリットです。

更新工事終了後、スチューダーさんの協力の下、数回に分けて実際の使用者を集め、使用方法のレクチャーを行いました。またこの時点で、イレギュラーな使用パターンを逆取材し、対応も決めました。これらが効を奏したせいか、問い合わせなどは一切無くびっくりしています。通常、慣れてもらうまでの期間いろいろな問い合わせがあったり、間違った使い方のためにトラブルしたり、多少なり苦労するのですが、これはうれしいことでした。今回は配色やデザインにも多少気を使い、スチューダーさんからも積極的な提案をいただき、非常に居心地の良いスタジオになったと思います。また卓の安定度は非常に高いと思います。もはやデジタル卓だから導入に不安になったり、予備アナログ卓を用意したりは、過去の話と言えるのではないのでしょうか。当然7スタは予備を置く場所も無いですし、デジタルのメリットを最大限利用したい性格の部屋ですから、最初からデジタル卓に決めていたわけですが、今回の成功は前回更新時にデジタル卓に踏み切れなかった生放送卓の考え方にも大きく影響しそうです。